

県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

みやぎの 7月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジを支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.197 2023.7

紹介内容 (6/1~6/30)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 美里農改：大崎市田尻地区の農業法人がさつまいも栽培に挑戦！
 - 登米農改：JAみやぎ登米迫稲作経営部会現地検討会が開催されました
 - 登米農改：JAみやぎ登米胡瓜部会の抑制胡瓜品種説明会が開催されました
 - 石巻農改：宮城県RTKシステムを使った大豆播種前の耕起作業を視察しました！

- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - 登米農改：新規就農者を対象にサポート巡回を実施しました
 - 大崎農改：大崎4Hクラブが大崎地域の小学生(親子)を対象に農業体験を開催しました
 - 大河原農改：若手果樹生産者等の知識向上と横のつながりを図る
 - 大崎農改：大崎市岩出山下真山地区の法人化に向けて
 - 石巻農改：女性農業者組織「ベジ☆hope」定例会を開催しました！
 - 美里農改：美里4Hクラブ主催「新規就農者歓迎会」が開催されました

- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - 仙台農改：RTKをテーマとした「アグリテック活用推進セミナー」が大郷町で開催されました
 - 農業振興課：第1回アグリテック活用推進セミナーを開催しました
 - 仙台農改：令和5年産麦類の適期刈取りについて検討を行いました
 - 仙台農改：第2回水稻乾田直播栽培勉強会を開催しました

- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - 登米農改：JAみやぎ登米たまねぎ部会の現地検討会が開催されました
 - 石巻農改：オリーブほ場の巡回指導を行いました
 - 栗原農改：栗っこズッキーニ部会の市場訪問が行われました
 - 大崎農改：JA古川春ブロッコリー現地巡回指導会が開催されました
 - 大河原農改：そらまめの現地検討会と研修会を開催しました
 - 美里農改：JA新みやぎみどりの地区「田尻ブロッコリー・そらまめ現地検討会」が開催されました
 - 仙台農改：JA新みやぎあさひなぶどう部会の栽培講習会が開催されました
 - 大河原農改：ぶどう栽培講習会が開催されました！
 - 栗原農改：シャインマスカット栽培技術研修会を開催しました
 - 栗原農改：「くりはらマルシェ」にて栗っこズッキーニの販売が行われました！
 - 登米農改：JAみやぎ登米キャベツ部会の現地検討会が開催されました
 - 石巻農改：オリーブ栽培指導会が開催されました

このニュースレターは、ホームページ(カラー版)でご覧になれます。<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html>
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。<https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu>

- 石 巻農改：施設なすの視察研修を行いました！
- 登 米農改：ピーマンほ場の巡回指導を行いました
- 大 崎農改：加美町の花き農家を巡回しました
- 大河原農改：いちじく芽かき講習会が開催されました
- 亘 理農改：やまもとファームみらい野でさつまいも栽培講習会が開催されました
- 栗 原農改：ミヤギテレビ「OH! バンデス」にて栗っこズッキーニが生放送で紹介されました！
- 仙 台農改：大郷町に大型発芽野菜生産施設が完成
- 美 里農改：美里町に県内最大級のトマト栽培施設が整備されます
- 仙 台農改：JA 新みやぎあさひなりんご部会の現地検討会が開催されました
- 大河原農改：ぶどう摘粒講習会が開催されました！
- 大河原農改：JA みやぎ仙南蔵王地区ナシ部会現地検討会が開催されました！
- 気仙沼農改：南三陸町で令和5年度第1回シャインマスカット栽培研修会を開催しました！
- 美 里農改：日本なしの現地検討会が開催されました

⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

- 石 巻農改：大豆栽培講習会が開催されました
- 気仙沼農改：さつまいもの定植作業が行われました
- 石 巻農改：大麦種子生産ほの第二期ほ場審査が行われました！
- 石 巻農改：石巻管内で表現地検討会が行われました！
- 大 崎農改：子実用とうもろこしの生育調査を行いました
- 亘 理農改：JA みやぎ亘理の飼料用米研修会が開催されました
- 登 米農改：「つや姫」栽培研修会が開催されました
- 大 崎農改：まもなく小麦の収穫期を迎えます
- 美 里農改：今年的小麦はいつ刈る！？～現地検討会が開催されました
- 登 米農改：JA みやぎ登米石越町稲作研究会の現地検討会が開催されました
- 登 米農改：米山水稲部会の現地検討会が開催されました
- 大 崎農改：水稲乾田直播栽培の生育調査を行いました

2. 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

① 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

- 気仙沼農改：気仙沼金のいぶきブランド化推進協議会の設立総会が開催されました
- 仙 台農改：仙台市農作物有害鳥獣対策協議会の総会が開催されました

3. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

- 気仙沼農改：酒米サポーターズクラブの田植えが行われました
- 大 崎農改：あ・ら・伊達な道の駅販売拡大研修会
- 仙 台農改：地域計画策定に係る担当者会議を開催しました

② 環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

- 登 米農改：「グリーンな栽培体系」を目指して、展示ほ場の生育調査が行われました
- 美 里農改：JGAP 団体認証取得に向けた IPM 研修会が開催されました

③ 大規模自然災害等からの復旧・復興・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

- 仙 台農改：令和元年東日本台風等豪雨災害からの施設園芸法人経営再建支援

4. その他

① 要請・緊急対策、その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

- 石 巻農改：～関係機関一体となって石巻の農業振興を進めていきます～ 令和5年度石巻地域農政担当課長会議を開催

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○大崎市田尻地区の農業法人がさつまいも栽培に挑戦！

令和5年6月6日

美里農業改良普及センター



令和5年5月26日に、大崎市田尻地区の農事組合法人おおぬき彩土里ファームがさつまいもの定植作業を行いました。

今回、農業・園芸総合研究所が、管理機を使った畝立て・マルチ張りを実演し、定植方法や今後の栽培管理について説明を行いました。生産者は、実際に作業を行いながら、管理機の設定や定植のポイント等を確認し、さつまいもの栽培管理について理解を深めました。

普及センターでは、持続的な法人運営を目指した経営管理や栽培技術の支援を行っており、農事組合法人おおぬき彩土里ファームでは、高収益作物としてさつまいもの試験栽培を行い、周年作業の平準化や収益向上を検討しています。

普及センターでは、引き続き地域を担う農業法人の高収益作物の導入に向けた支援を行っていきます。

○JAみやぎ登米迫稲作経営部会現地検討会が開催されました

令和5年6月14日

登米農業改良普及センター

本年度の田植えも5月末にはほぼ終了し、田んぼの緑色も日に日に濃くなってきました。

去る6月7日、JAみやぎ登米迫稲作経営部会現地検討会が開催され、部会員及び農薬・資材メーカー担当者等約10名が出席しました。

今回は6筆を巡回し、主に新規除草剤4剤、箱処理剤2剤の効果を中心に検討しました。



除草剤の試験ほ場では、いずれのほ場でも雑草の残草はほとんどなく、水田の中で枯死した雑草がや、除草剤の無処理枠内に発生した雑草との明らかな違いも確認できたことで、出席者はより効果を実感したようでした。

箱処理剤についても、イネミズゾウムシ等の食害はほとんどなく、効果は高いと判断できました。

巡回終了後、普及センターからは、今後の水稲の栽培管理の留意点、プロジェクト課題である「グリーンな栽培体系」への取り組み、農薬の安全使用等について説明を行いました。

普及センターでは、今後も登米管内の水稲の収量と品質の向上を支援していきます。

○JAみやぎ登米胡瓜部会の抑制胡瓜品種説明会が開催されました

令和5年6月15日

登米農業改良普及センター



令和5年5月31日、JAみやぎ登米胡瓜部会の抑制胡瓜品種説明会が開催され、部会員23人が参加しました。

説明会では、管内生産者の多くが栽培している品種を販売する種苗会社2社より抑制栽培向けの品種説明のほか、今年の冬～春先にかけての出荷状況や樹作り等について説明がありました。

普及センターからは、作業前に暑さ指数(WBGT)の確認や熱中症アラートを活用した作業時間の調整、冷却ベスト等の作業安全資材を活用した熱中症対策等の農作業安全対策についてと、今後の高温期における障害の出にくい環境作り等について説明を行いました。

6月から7月にかけては、促成作から抑制作への移行時期と気温が高い時期が重なるため、作業者と作物の両方に注意が必要となります。普及センターでは、農作業安全対策や肥培管理指導等、品質向上に向けた支援を行っていきます。

○宮城県 RTK システムを使った大豆播種前の耕起作業を視察しました！
令和5年6月16日
石巻農業改良普及センター



令和5年4月から宮城県 RTK システムの本格運用が始まり、GPS等の位置情報を利用したスマート農業機械の高精度な航行が可能となりました。石巻管内では14の経営体が本システムに登録しており、この春からの作業に活用しています。当普及センターでは、6月6日に管内の農業法人で行われた本システムを利用した自動操舵付トラクターによる大豆の播種前の耕起作業の状況を確認しました。隣接条を順に耕起する作業工程を、作業速度3～4 m/s、耕起の重ね幅が5 cm(通常20 cm)と高精度な作業を安定して行うことができました。1 haのほ場であれば、作業時間を約20分短縮でき、当該法人では今年の大豆栽培において、耕起作業の他に播種、中耕培土で本システムを活用する予定です。

当普及センターでは、農業分野のDXを推進するため、アグリテックや宮城県 RTK システムの活用を支援していきます。

②新たな担い手の確保・育成

○新規就農者を対象にサポート巡回を実施しました
令和5年6月2日
登米農業改良普及センター



農業次世代人材投資事業(経営開始型)の交付対象者となっている認定新規就農者を対象に、5月25日、26日に関係機関と連携してサポート巡回を行いました。

今回は、野菜生産者5人と畜産(繁殖)1人を対象に巡回し、就農計画の達成状況や営農状況について確認し、今後の営農に向けた意見交換を行いました。農業資材や飼料の価格高騰、子牛市場相場の下落など思うように営農ができない厳しい状況下での営農となっている中、多くの新規就農者は概ね計画どおりの規模で経営しており、中には計画目標以上の経営を達成している新規就農者もいました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携しながら、新規就農者を含め、地域の担い手の確保・育成に努めていきます。

○大崎4Hクラブが大崎地域の小学生(親子)を対象に農業体験を開催しました
令和5年6月8日
大崎農業改良普及センター



大崎4Hクラブが、令和5年6月4日(日)に大崎生涯学習センターとともに「親子でいっしょにかんたん家庭菜園 野菜を観察しながら育てよう」を開催しました。大崎地域在住の小学生とその親を対象に、農業へ興味を持ってもらうことや、食育を目的として毎年取り組んでいるイベントです。

今回は、身近な野菜栽培に取り組めるよう、ミニトマトの袋栽培とリーフレタスのポット栽培を体験メニューとして準備し、親子5組が苗の定植を行いました。イベントに使用した野菜苗や、栽培マニュアルはすべて、大崎4Hクラブ員の手作りです。参加した親子が栽培について4Hクラブ員に積極的に質問する姿が見られました。

次回以降は、親子で取り組むミニトマト・リーフレタスの観察記録作成の補助や、4Hクラブ員が考えた野菜クイズのイベントを行います。

○若手果樹生産者等の知識向上と横のつながりを図る
令和5年6月12日
大河原農業改良普及センター



今年度、大河原農業改良普及センターでは、若手の果樹生産者や果樹での新規就農希望者を対象に年5回程度研修会を企画しています。目的は、基礎的な栽培技術や知識の向上を図ることですが、同時に互いに交流する場を設ける事で点在している対象者をつなぎ、県内でも有数の果樹産地の活性化につながる事も期待しています。



今回、第1回目として「スピードスプレーヤーの基礎」をテーマに(株)丸山製作所東北支店宮城営業所の鈴木所長を講師に迎え、果樹栽培では一般的な薬剤散布機械であるスピードスプレーヤーの構造や安全な使い方について研修会を開催し、参加した11名が座学と実演で学びました。これまで専門業者からきちんと教わった事がない参加者も多く、大変良い機会になったとの感想が聞かれました。また、研修会後半では参加者の交流が盛んになり、今後の展開が期待できる様子が見られました。

今後にも有意義な内容の研修会を企画し、若手果樹生産者等には継続的な参加を呼びかけていきます。

**○大崎市岩出山下真山地区の法人化に向けて
令和5年6月14日
大崎農業改良普及センター**



大崎市岩出山の真山地区(小坪工区、黄金田一部工区、黄金田二部工区)では農地整備事業を契機とした地域の営農体制づくりを進めており、令和4年度には若手担い手部会を中心として法人化に向けた勉強会を行った結果、小坪工区での法人化の話し合いが活発化しています。令和5年度も引き続き、法人化に向けた話し合いと専門家派遣による勉強会を行うため、普及センターでは、令和5年6月7日に法人の構成員となる生産者3名と打合せを行いました。打合せでは、令和4年度までの法人化に向けた取組内容を生産者から説明してもらい、現状と課題を整理しました。生産者からは、「まずは自分たちが法人化することで、地区の他の担い手のモデルになりたい」という発言もあり、地区内の担い手としての気概が感じられました。

**○女性農業者組織「ベジ☆hope」定例会を開催しました！
令和5年6月21日
石巻農業改良普及センター**



石巻地域の女性農業者で組織される「ベジ☆hope」の総会が6月6日に開催されました。

「ベジ☆hope」は、平成24年度に石巻農業改良普及センターのプロジェクト課題で設立した、石巻地域の若手女性農業者で構成される組織です。自発的な会の運営を目指して、会員の希望する視察や研修会を会員自ら企画し、自らの資質向上と他の農業者と交流を図っています。

当日の集まりでは、昨年の活動実績を踏まえ、本年度の具体的な活動計画を協議しました。昨年度は料理講習会や、普及センター職員が講師となった水稲栽培に関する勉強会を行いました。本年度はコロナが5類感染症に移行したことから積極的に外に出ようと、視察研修会や石巻地区生活研究グループとの料理技術交換会等を計画しており、他の農業者との交流を楽しみに活動していきます。

**○美里4Hクラブ主催「新規就農者歓迎会」が開催されました
令和5年6月30日
美里農業改良普及センター**



参加者記念撮影

令和5年6月2日に美里4Hクラブ(以下、美里4HC)主催の「新規就農者歓迎会」が開催され、12名(新規就農者2人、美里4HC3人、美里農業改良普及センター職員7人)が参加し、親睦を深めました。

はじめに、大友達也会長から歓迎の挨拶と、美里4HCの活動紹介として、美里管内(大崎市鹿島台・田

尻・松山、涌谷町、美里町)の若手農業者10人で活動しており、定例会の開催や先進地視察研修などを通じた農業知識の習得と仲間づくりに取り組んでいることについてお話がありました。

参加者のうち新規就農者1人は、活動の趣旨に賛同し、即日入会することになりました。

今後のクラブ活動の活発化を期待するとともに、普及センターでは、若手農業者の交流や技術研さんを支援し、地域農業の担い手の確保及び育成に取り組んでいきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

ORTKをテーマとした「アグリテック活用推進セミナー」が大郷町で開催されました
令和5年6月8日
仙台農業改良普及センター



令和5年6月5日、大郷町のえだまめ生産ほ場において、RTKシステムの露地園芸への活用をテーマとしたセミナーが開催されました。当該ほ場では、(有)薬師農産がえだまめを栽培し、普及センターでえだまめの生産振興を目的としたプロジェクトを通して、排水対策などの栽培技術支援を行っています。

RTKは、地上に設置した基地局から発信する補正信号を受信してGPS測位の精度を向上させる測位技術で、これにより農業機械の自動運転等で高精度(誤差数cm)の作業が可能となります。県では昨年度、このRTK基地局を県内7か所に整備し、活用を推進しているところです。

当日は、ヤンマーアグリジャパン(株)の協力のもと、RTK装着トラクターによる耕起・播種・除草剤散布の作業が行われ、参加者は作業の速度や精度などを観察しました。このセミナーには、県内の農業者や関係機関などから約100名の参加があり、農業の高齢化や人手不足と今後予想される担い手の経営の大規模化などを見据え、RTKに関心が高まっている様子をお話することができました。

○第1回アグリテック活用推進セミナーを開催しました

令和5年6月13日

宮城県農業革新支援センター

(農政部農業振興課普及支援班)



宮城県では、スマート農業などのICT技術を活用したアグリテックを推進しています。

アグリテック機器での活用を見込むRTKシステムは、GPSなどの人工衛星から得られる位置情報をより精度の高い情報に補正し、数センチ単位の機械作業ができるシステムです。農業分野では、作業の省力化や負担軽減につながる技術として期待されています。県では、昨年度、RTK基地局を県内7か所に設置し、県全域をカバーエリアとして令和5年4月から本格的に運用を始めています。

令和5年6月5日には、RTKシステムの本格運用後に初めて、RTKシステムの効果的な活用と普及に向けたセミナーを開催し、農業者や支援機関など約100名が参加しました。

セミナーでは、ヤンマーアグリジャパン株式会社の協力のもと、大郷町の有限会社薬師農産のほ場で、RTKシステムを活用した「えだまめ」の播種作業を実演しました。また、今年度からスマート農業技術のワンストップ支援を行っている「スマート農業コンシェルジュ」から、RTKシステムの概要や利用方法を情報提供しました。

県では、RTKシステムの利用申し込みを随時受け付けております。また、アグリテックの普及拡大に向けて、「アグリテックアドバイザー派遣」による専門的指導や、「みやぎスマート農業推進ネットワーク」でアグリテックに関して情報共有するなど、農業者を支援しています。

RTKシステムの利用など、アグリテックにご興味のある方は、各地域の農業改良普及センターや県農業革新支援センターに、お気軽にご相談ください。

「宮城県RTKシステムの利用案内について」

(<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/rtk-system.html>)

○令和5年産麦類の適期刈取りについて検討を行いました
令和5年6月21日
仙台農業改良普及センター



令和5年5月16日にJA仙台主催の「令和5年度第1回JA仙台麦生産部会協議会」、令和5年5月16日にJA新みやぎあさひな統括営農センター主催の「令和5年産麦の現地検討会」が開催され、あわせて8法人の代表者の出席がありました。

これらの会の中で、普及センターからは令和5年産麦類の生育状況や刈取り適期について、JAからは今年の刈取り適期に基づいた荷受け計画について説明がありました。今作の麦類の生育ステージの進展は例年にくらべるととても早くなっており、刈取り適期も早まる見込みです。生産者も今作の麦の出来に手ごたえを感じており、刈遅れにならないように法人内で刈取り計画について今後打合せると話していました。

普及センターでは、今後もJAと連携して麦類の生産性向上を支援していきます。

○第2回水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました
令和5年6月21日
仙台農業改良普及センター



仙台農業改良普及センターでは、今年度も水稲乾田直播栽培勉強会を開催し、乾田直播栽培技術を導入し水稲の収量向上を目指す生産者を重点的に支援することとしています。5月30日に仙台市若林区において、「苗立ち/雑草防除/水管理」をテーマに今年度2回目の勉強会を開催しました。参加者は地元農業者や農協職員など10名でした。

普及センターから雑草防除や水管理等について説明をした後、ほ場3か所で現地検討を行いました。今年は各ほ場の苗立本数や苗立率の調査も普及センターで行っており、耕種概要とそれらの数値を比較しつつ意見交換を行いました。また、雑草防除の回数を減らす方法やイネ出芽後の入水のタイミング等についても、参加者同士で熱心に意見交換が交わされま

した。

普及センターでは、今後も水稲乾田直播栽培の技術定着を支援してまいります。

④園芸産地の育成・強化支援

○JAみやぎ登米たまねぎ部会の現地検討会が開催されました
令和5年6月2日
登米農業改良普及センター



令和5年5月23日に、JAみやぎ登米たまねぎ部会の現地検討会が開催され、部会員11人が参加しました。登米管内におけるたまねぎ栽培は米山町を中心に組み込まれており、主に加工業務向けに出荷されています。

普及センターからは、今後の気象状況と大雨対策、病虫害対策について説明を行いました。また、部会員のほ場を巡回し、部会員と共にたまねぎの生育の進み具合や排水対策について確認を行いました。

普及センターでは、今後も生産技術向上、部会活動活性化等に向けた支援を行ってまいります。

○オリーブほ場の巡回指導を行いました
令和5年6月2日
石巻農業改良普及センター



令和5年5月25日(木)、26日(金)に石巻市産業部農林課担当者と雄勝、大川、北上、網地島地区のオリーブほ場の巡回指導を行いました。

令和5年のオリーブ栽培暦や防除暦を配布し、栽培管理や生育状況を確認して、各ほ場主と情報交換を行いました。

各ほ場とも、これまでのせん定や誘引等の栽培管理や樹冠の拡大により、前年より花芽が多く、収量増加が期待されます。

石巻市では平成26年からオリーブの栽培が行われ、令和元年から搾油されています。

今後とも普及センターでは病虫害防除等の栽培技

術について支援を行っていきます。

○栗っこズッキーニ部会の市場訪問が行われました

令和5年6月5日

栗原農業改良普及センター



令和5年5月22日(月)、JA新みやぎ栗っこズッキーニ部会の役員6名、JA新みやぎ及び普及センターの担当者が株式会社石巻青果を訪問し、市場動向の聞き取りと情報交換を行いました。

はじめに株式会社石巻青果の担当者から、市場動向について説明があり、本年度は昨年度以上に栗っこズッキーニを取扱いたいという言葉いただきました。

続いて、同部会からは、これから最盛期を迎えるズッキーニの積極的な取扱いについてお願いするとともに、品質向上に向けた部会での取組について説明を行いました。また、普及センターからは、認知度向上のためのマスコミ対応やキャンペーンの開催等について説明を行いました。

最後に、部会員の研修も兼ねて、市場を見学し、出荷したズッキーニがどのように納品されていくのか確認しました。また、同部会員は株式会社石巻青果の担当者と活発に意見交換を行っており、関心の高さが伺えました。

○JA 古川春ブロッコリー現地巡回指導会が開催されました

令和5年6月5日

大崎農業改良普及センター



令和5年5月22日 JA古川主催の春ブロッコリーの現地巡回指導会が開催されました。7人の生産者が参加し、各生産者のほ場を巡回して、生育状況や今後の管理等について検討を行いました。

定植は4月4日～23日の間に実施され、早い生産者では6月から収穫が始まる予定です。アオムシによる食害も見られましたが、生育は概ね順調でした。病害虫防除への関心が高く、薬剤の作用機構に基づいた散布方法や組み合わせ等についての質問が積極

的に出され、生産者同士でも活発な情報交換が行われました。

普及センターでは引き続き、巡回等を通して、ブロッコリーの栽培技術支援を行っていきます。

○そらまめの現地検討会と研修会を開催しました

令和5年6月5日

大河原農業改良普及センター



5月11日～12日にかけてそらまめを初めて栽培する農業法人の圃場(4箇所)の巡回と生育調査を行いました。生育や着果にばらつきがありましたが、総じて病害虫は少なく早期に出荷が可能であることが判りました。この結果を踏まえ、5月17日、JAみやぎ仙南村田地区そらまめ部会の目ざろい会の中で現在の生育状況と今後の病害虫対策について講習を行いました。

生育が良好で昨年より早めに収穫できることから、生育が良い株の摘芯や支柱による倒伏防止、今後発生が予想されるアブラムシや赤色斑点病対策として早めの薬剤防除を徹底するよう呼びかけました。

道の駅村田の農産物直売コーナーでは5月18日頃からそらまめが出回り始めましたが、主に市場向けを扱うJAみやぎ仙南では、昨年より2日早い5月23日からの荷受・出荷を予定しており、出荷のピークは例年よりやや早まって6月上旬になる見込みです。

普及センターでは、宮城の特産品であるそらまめの産地育成のため、引き続き支援していきます。

○JA新みやぎみどりの地区「田尻ブロッコリー・そらまめ現地検討会」が開催されました

令和5年6月6日

美里農業改良普及センター



令和5年5月29日にJA新みやぎみどりの地区田尻営農センター主催の「田尻ブロッコリー・そらまめ

現地検討会」が開催され、生産者10名が参加し、積極的な情報交換等が行われました。

現地検討は、そらまめ4カ所、ブロッコリー3カ所のほ場で行い、収穫・出荷時期が迫ったそらまめと春植えのブロッコリーの生育状況等を確認しました。今年はやや早く、病害虫も発生しやすい環境でしたが、そらまめ、ブロッコリーともに目立った病害虫の発生は見られず、順調に生育していました。

ほ場巡回後、普及センターから、品目ごとの総評を行うとともに今後の管理等について説明しました。生産者からは父の日に向けたそらまめの収穫・出荷や今後のブロッコリーの栽培管理に一層励みたいという声がありました。

普及センターでは、各園芸品目の安定生産に向けた取組を支援していきます。

○JA新みやぎあさひな ぶどう部会の栽培講習会が開催されました 令和5年6月7日 仙台農業改良普及センター



令和5年5月30日に、大和町のぶどう「シャインマスカット」ハウスを会場に、JA新みやぎあさひなぶどう部会の栽培講習会が開催され、部会員15名が参加しました。

当普及センターが講師となり、花穂整形作業、無核化処理、新梢管理等について説明しました。花穂整形作業については、作業を開始するタイミングや房の選別など実際の花穂を比べながら説明しました。普及センターでは2年前から作業の進捗確認を確実に実行するため、チェックシートを取り入れています。特に今年は、発芽から開花にかけて平年より10日ほど早いことから、チェックシートを活用し適期に作業が終わるよう促しました。

普及センターでは今後も、高品質なぶどうの生産に向けて同部会を支援していきます。

○ぶどう栽培講習会が開催されました！ 令和5年6月9日 大河原農業改良普及センター

丸森町や蔵王町などの仙南地域では、生食用ぶどうの栽培が進められており、中でも“シャインマスカット”の栽培が増加しています。大河原農業改良普及センターでは、これらの生食用ブドウの生産拡大を支援しています。

5月24日に開催されたぶどう栽培講習会では、今年植付けした新規栽培者から熟練者まで計21名が参加し、普及センターを講師に5月～6月にかけての栽培管理方法について学びました。質疑応答も活発



に行われ、参加者の生食用ぶどう栽培に対する意気込みが感じられました。

また、参加者同士の情報交換も行われ、地域を越えた横のつながりも強化された様子でした。

普及センターでは、今後も生食用ぶどうの適期管理について技術習得の支援を行っていきます。

○シャインマスカット栽培技術研修会を開催しました 令和5年6月13日 栗原農業改良普及センター



令和5年6月7日（水）に栗原市金成で「シャインマスカット栽培技術研修会」を開催しました。

当日は、シャインマスカットの生産者や今後導入予定の方々、合わせて38人の参加がありました。

はじめに、普及センターで作成した「栽培暦」と「ジベレリン処理の留意点」に基づき、基本的な管理作業について説明し、その後、現地ほ場の園主である田中学さんを講師に、房づくりのポイントや新梢管理について実演を交えながら講義をしていただきました。参加者からは、日頃の管理作業で迷っている点や疑問に感じている部分について多くの質問が出されるなど熱心に受講されていました。

この研修会は年間3回を予定しており、次回は収穫適期の見極めを目的に、9月上旬に開催する予定です。

**○「くりはらマルシェ」にて栗っこズッキーニの販売
が行われました！
令和5年6月13日
栗原農業改良普及センター**



令和5年6月2日(金)、県庁1階ロビーで開催された「くりはらマルシェ」にJA新みやぎ栗っこズッキーニ部会が出店し、ズッキーニの販売を行いました。

販売会では、生産者がサラダや炒め物など手軽な食べ方をお客様に説明し、栗原産ズッキーニをPRしました。新鮮で色つやのある外観が好評で、何本もズッキーニを買い求めるお客様が多く、約400本のズッキーニは3時間ほどで完売しました。

ズッキーニは6月から7月にかけて本格的な出荷を迎えます。皆様もお近くのスーパーや栗原市内の農産物直売所等で、ぜひ栗っこズッキーニをお買い求めいただき、召し上がってみてください。

普及センターでは、今後も生産者や関係機関と連携しながら、ズッキーニの産地育成と消費拡大に向けた支援を行っていきます。

**○JA みやぎ登米キャベツ部会の現地検討会が開催
されました
令和5年6月14日
登米農業改良普及センター**



令和5年5月25日に、JAみやぎ登米の現地検討会が開催され、部会員5人が参加しました。

本年は、3月の大雨によりほ場の浸水が見られ病害

虫の発生が心配されましたが、一部ほ場で排水不良による生育への影響があったものの、全体的に順調な生育がみられました。

検討会では、視察先ほ場において、これまでの管理や現在の出荷状況や今後の収穫管理について検討が行われました。参加者からは大雨への対策に関する質問があり、明きよによる排水対策や雨前の予防薬散布等について説明しました。また、JAみやぎ登米から市場の状況や今後の予測について情報提供がありました。

普及センターでは、病虫害防除対策や肥培管理指導など、品質向上に向けた支援を行っていきます。

**○オリーブ栽培指導会が開催されました
令和5年6月14日
石巻農業改良普及センター**



令和5年6月8日(木)に、石巻市産業部農林課主催で石巻市大川地区ほ場を会場に香川県の株式会社アライオリーブ社長を講師に、オリーブ栽培指導会が開催され、石巻市北限オリーブ研究会栽培技術・生産部会員4法人が参加しました。

講師から病虫害防除や開花期の管理等について説明があり、生育は開花始めて前年より10日程度早く、枝の誘引等の管理や樹冠の拡大により花芽数も多く、前年より多い収量が期待されるとの講評をいただきました。このまま順調に生育すれば10月中下旬にはオリーブの実が収穫され、搾油されます。

普及センターでは、病虫害防除や施肥管理等の栽培技術について今後も支援を行っていきます。

**○施設なすの視察研修を行いました！
令和5年6月15日
石巻農業改良普及センター**



施設なすを導入して間もない農業法人や新規就農者の栽培技術向上を目的に、令和5年6月12日(月)に農業・園芸総合研究所の施設なすほ場で視察研修

を行いました。

農業・園芸総合研究所では、研究員より株間や品種の異なる栽培試験や病害虫防除のための天敵の導入、高温期のハウス内の換気や冬期の保温などの栽培状況と環境について説明を受けました。

参加者は、それぞれの栽培環境の改善方法や、現在の栽培状況について相互に情報交換を行っていました。

普及センターでは、今後もほ場の巡回等を行いながら、高品質ななす生産を目指して技術指導を行っていきます。

○ピーマンほ場の巡回指導を行いました

令和5年6月16日

登米農業改良普及センター



令和5年6月6日に、JAみやぎ登米担当者と登米市中田町のピーマンほ場の巡回指導を行いました。

登米地域では、令和3年から新たな野菜品目として、ピーマンの作付け拡大に向けた取組みが進められています。令和5年現在、豊里町を中心にピーマンを栽培する生産者が増加し、講習会や現地検討会などでの情報交換が盛んに行われるようになりました。

今回の巡回では、主に作付け1年目の生産者を対象に、ピーマン定植後の栽培管理（水やり、追肥、仕立て作業など）や生育状況を確認して、各ほ場の生産者から管理状況の聞き取りを行い、土づくりや連作障害への対策について指導を行いました。

普及センターでは、今後もピーマンの生産拡大に向けた栽培技術支援を行っていきます。

○加美町の花き農家を巡回しました

令和5年6月19日

大崎農業改良普及センター



令和5年6月13日、加美町のみやざきどどんこ館に出荷している花き生産者4名と現地検討会を実施しました。今回は会員2名のほ場を見学し、意見交換

を行いました。盆の需要期に向けてトルコギキョウや露地ぎくが定植され、概ね順調に生育していました。また、昨年から取り組んでいるケイトウや、レースフラワー、ムギワラギク、切り花マリーゴールドなど、花きのアイテムを増やすべく、多様な洋花にチャレンジしている様子がうかがえました。

栽培管理方法や、農薬の効果的な散布時期などについて情報交換を行うことができ、大変勉強になった、との声が聞かれました。

○いちじく芽かき講習会が開催されました

令和5年6月20日

大河原農業改良普及センター



JAみやぎ仙南蔵王地区いちじく部会では、生産振興に向け、生育ステージごとに講習会等を開いており、今回は令和5年5月23日に現地ほ場で芽かきについての実習を行いました。

蔵王町は古くからのいちじく産地で、長年の栽培経験を持つ人が多い部会ですが、栽培経験が少ない人もいます。講習会では初心者からベテランまでの栽培者が集まり、普及センターからの説明と実技を見た後、参加者相互で検討しながら実際に芽かき作業を行いました。

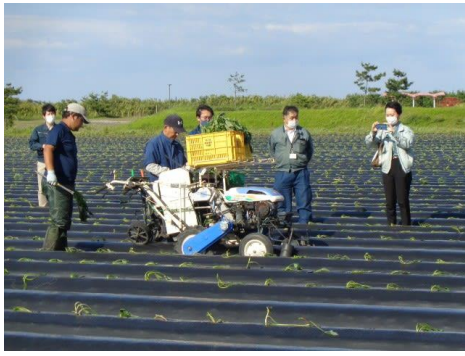
今後も部会では講習会等を計画しており、普及センターではJA等と連携して、継続的な支援に取り組んでいきます。

○やまもとファームみらい野でさつまいも栽培講習会が開催されました

令和5年6月20日

亘理農業改良普及センター





令和5年5月24日に山元町の株式会社やまもとファームみらい野を会場に、県園芸推進課が主催するさつまいも栽培講習会が行われ、亘理管内を始めとする県内のさつまいも生産者、関係団体、関係普及センター等47人が参加しました。

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センターの研究員が講師となり、育苗の基礎技術、土壌病害であるサツマイモ基腐病の対策、さつまいもの適切な取り扱い方法、キュアリング技術について講習を行いました。

サツマイモ基腐病の感染等の影響で全国的に作付面積が減少しているため、産地が西日本から東日本に移行してきており、東北地方では増加しています。

普及センターでは、独自で作成したさつまいも栽培マニュアルを活用する等、今後も生産者、関係機関と連携し、安定した生産体制の確立に向けて支援してまいります。

○ミヤギテレビ「OH! バンデス」にて栗っこズッキーニが生放送で紹介されました!

令和5年6月21日

栗原農業改良普及センター



令和5年6月12日(月)、ミヤギテレビ「OH! バンデス」のバンデス中継にて、栗っこズッキーニが生放送で紹介されました。今回の生放送では、栗っこズッキーニ部会の佐藤和好部会長のほ場を会場に、16時放送と17時放送の2回に分けて、計12分ほど放送されました。

16時からの生放送は、Z-1プロジェクトの概要やズッキーニの栽培状況、立体栽培の取り組み等の内容となりました。普及センターからは、Z-1プロジェクトにおいて、関係機関一体となって販売金額1億円を目指していることを説明しました。また、佐藤部会長からは、立体栽培により収量向上に取り組んでいることを解説いただきました。

17時からの生放送は、栗っこズッキーニを使用したレシピの紹介等の内容となりました。実際に生産

者の家庭で食べられている料理を準備いただき、作り方などを簡単にご紹介いただきました。普及センターでは、昨年度 Instagram に投稿いただいた栗っこズッキーニを使用したレシピについて4品紹介し、消費拡大に向けてPRを行いました。

ミヤギテレビ様の事前の入念な打ち合わせや当日の柔軟な対応に加え、撮影に係わった全スタッフ一丸となり生中継は無事に成功を収めることができました。栗原農業改良普及センターでは、引き続き栽培技術指導及び消費拡大に向けたPR活動を行ってまいります。

○大郷町に大型発芽野菜生産施設が完成

令和5年6月21日

仙台農業改良普及センター



(株)村上農園(本社:広島市)は、令和5年6月16日(金)に大郷町において、新しい発芽野菜の大型生産施設「宮城大郷生産センター」(以下「生産センター」という。)の竣工式を執り行いました。

生産センターは、(株)村上農園にとって東北初の生産拠点であり、首都圏や東北の消費者に向けて、スプラウトや豆苗などの発芽野菜を生産する計画です。

生産センターの建設中には、令和元年東日本台風と令和4年7月15日からの大雨により、2度にわたる浸水被害を受けるなど多くの困難に直面しましたが、ピンチをチャンスに変えるという(株)村上農園の社風がいかされ、今回の竣工式に漕ぎつけられました。

社長の村上清貴氏は、「雇用を創出して大郷町の経済発展に貢献するとともに、この地で、第2、第3の生産施設を建設するため、社員一同頑張りたい。」と述べられ、本県の園芸産出額の拡大に大きく貢献することが期待されています。普及センターでは市町村や関係機関と連携しながら、企業等の農業参入を支援していきます。

○美里町に県内最大級のトマト栽培施設が整備されます

令和5年6月26日

美里農業改良普及センター

石巻市でトマトやパプリカを生産する(株)デ・リーフデ北上のグループ企業として、令和4年12月に設立された(株)デ・リーフデ美里(以下、DL美里)は、令和5年6月21日に美里町と立地協定を締結しました。

DL美里は、美里町内の遊休ハウスを活用して、県内最大級となる約2ヘクタールのトマト栽培施設を整備し、令和6年から大玉トマトの周年栽培を行う



計画です。宮城県の比較的冷涼な気候を活かし、トマトの価格が上昇する9～10月にも安定出荷する「夏越し栽培」を行うことで、宮城県産トマトの産地化に貢献することが期待されます。

普及センターでは今後とも、関係機関と連携した園芸産地の育成支援を行ってまいります。

○JA 新みやぎあさひなりんご部会の現地検討会が開催されました
令和5年6月27日
仙台農業改良普及センター



6月15日、JA新みやぎあさひなりんご部会の部会員お二方のほ場で現地検討会が開催されました。

当日はそれぞれの園地を巡回しながら、栽培管理や生育、病虫害の発生状況等の確認を行いました。病虫害の発生はほぼなかったものの、4月下旬の低温による影響か、平年より着果量が少ない状況が見られました。

普及センターでは、新梢管理・害虫防除に関する情報提供や新梢の誘因の実演を行いました。また6月から8月末にかけて、農薬を使う機会が多いことから、農薬危害防止についても指導をしました。

普及センターでは、今後も引き続き防除や栽培管理指導を行い、果樹の安定生産を支援してまいります。

○ぶどう摘粒講習会が開催されました！
令和5年6月28日
大河原農業改良普及センター



令和5年6月21日に丸森町農業創造センター主催のぶどう摘粒講習会が開催されました。

講習会には、前回のジベレリン処理講習会に引き続き20名が参加しました。当日は、普及センターからきれいな果房に仕上げるための摘粒方法のポイントについて実演・説明後、生産者自ら摘粒作業に挑戦しました。

初めて摘粒作業をする生産者もいて、どの粒を落とせば良いのか最初は試行錯誤でしたが、徐々に慣れるにいたって摘粒作業もスムーズに行えるようになりました。中には摘粒作業の大変さが身に染みたと話す生産者もいました。

普及センターでは、今後もぶどうの技術習得の支援を行ってまいります。

○JA みやぎ仙南蔵王地区ナシ部会現地検討会が開催されました！
令和5年6月28日
大河原農業改良普及センター



令和5年6月22日にJAみやぎ仙南蔵王地区ナシ部会の現地検討会が開催されました。

ここ数年、凍霜害に見舞われた蔵王町では、今年も開花期が2週間近く早まったこともあり、4月上旬から下旬にかけて一部園地で霜の被害がありました。

現地検討会では、町内それぞれの地区の園地を今年着果状況や病虫害の発生状況を中心に、凍霜害の影響がどの程度あるかを把握するため、例年よりも早い時期の開催となりました。

凍霜害の程度は、同じ生産者でも園地の場所や品種で異なっており、全体的には概ね平年並みの着果量が確保できるのではないかと期待しています。病虫害も一部では発生が見られるものの、特に目立った被害は確認されませんでした。

普及センターでは、梅雨期でもあることから、黒星病など重要な病害対策をしっかりすることと、予備

枝の誘引等適期作業の実施について指導しました。

○南三陸町で令和5年度第1回シャインマスカット栽培研修会を開催しました！
令和5年6月30日
気仙沼農業改良普及センター



気仙沼・南三陸地域では、シャインマスカット等の大粒ぶどうの栽培が拡大しており、新規栽培者や栽培希望者も増加傾向にあります。普及センターではぶどうの品質、技術の向上による安定生産を図ることを目的に、令和5年6月1日に今年度1回目となる研修会を開催し、管内のぶどう生産者18名が参加しました。普及センター職員が講師となり、開花前後の栽培管理について説明を行った後、花穂整形等の管理作業について実演を交えながら研修を行いました。参加者からは、花穂整形のほか、ジベレリン処理や副梢管理等の栽培管理について多くの質問や意見が寄せられ、有意義な研修会となりました。

普及センターでは、今後も果樹の安定生産に向けた支援を行っていきます。

○日本なしの現地検討会が開催されました
令和5年6月30日
美里農業改良普及センター



美里町の「北浦梨」は大正時代から続く特産品で、県内有数の日本なし産地となっており、「幸水」、「豊水」、「あきづき」など、様々な品種が栽培されています。

JA新みやぎ北浦梨部会（部会員35人）は、令和5年産の高品質な果実生産と令和6年産の果実生産を左右する花芽の確保に向けて、6月23日に現地検討会を開催しました。

初めに普及センターから、日光や散布薬剤の透過性を向上させる「夏季管理（枝の誘引、夏季せん定）」を行う時期や優先的に誘引・せん定を行うべき枝の基準と、誘引を行う際の角度等の基本知識とポイン

トについて確認・説明を行いました。

その後、令和4年12月のせん定講習会において部会員で意見を出し合いながらせん定を行った「あきづき」と、同園地内の「幸水」の2品種について、今年発生した枝（新梢）と翌年以降の果実生産に用いるために育てている2年生枝（予備枝）等の夏季管理について、実演・実習を行いました。

そのほかにも、品種や生育ステージ及び着果位置による凍霜害被害状況の違いや、枝幹病害被害による主枝・亜主枝の更新に向けた候補枝の育成・管理方法等について参加者同士で積極的に情報交換が行われました。

普及センターでは、引き続き高品質な果実の安定生産に向けた支援を行っていきます。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○大豆培講習会が開催されました
令和5年6月1日
石巻農業改良普及センター



令和5年5月24日にJAいしのまき情報センターにおいて、JAいしのまき主催の大豆栽培講習会が開催されました。JA全農みやぎより「宮城県の大豆情勢について」、当普及センターより「令和4年産大豆の総括及び令和5年産大豆栽培管理のポイントについて」講義を行いました。大豆情勢については、世界の大豆は生産量、消費量ともに増加しており、国内では国産大豆の需要が高まっているとのことです。令和4年度作柄については、7月の大雨被害による収量の低下と大雨時の対策について説明を行い、令和5年産の栽培技術については、播種や施肥、中耕培土、病害虫及び雑草防除のそれぞれのポイントの説明を行いました。また、大豆種子の情勢では管内の種子生産ほ場が減少しており、今後の安定した大豆生産のためにも種子生産への協力が必要となっているとの旨の話題提供がありました。当日は、生産者やJAの営農指導員ら関係者約50人が参加し、今年度大豆栽培の参考に講義を聞いていました。

普及センターでは、管内で生産される大豆や大豆種子の高位安定生産を支援していきます。

○さつまいもの定植作業が行われました
令和5年6月2日
気仙沼農業改良普及センター

気仙沼市本吉町表山田・三段田地区では、ほ場整備事業を推進するため推進委員会が設立され、地域農業の収益向上に向けて、えだまめやさつまいもなど高収益作物の生産に取り組むこととしています。



令和5年5月28日は地区の方々13名が参集し、さつまいもの定植作業(5a)が行われました。委員長からのあいさつの後、地区の栽培担当者と普及センターから定植方法について説明が行われ、この後、各々がさつまいもの苗を持って一斉に定植作業を開始しました。苗は、茎の根本が少し湾曲したものが多かったため、定植作業に手間取った様子でしたが、次第にコツをつかみ、和気あいあいとした中で作業に汗を流しました。定植終了後は、早くも収穫の話題で盛り上がるなど、地域の連帯感、結束力を垣間見ました。

今後、農地の利用や担い手への農地の集積などの話し合いを通して地区の合意形成を図っていく必要があることから、普及センターでは引き続き地域の取組を支援してまいります。

○大麦種子生産ほの第二期ほ場審査が行われました!

令和5年6月13日

石巻農業改良普及センター



令和5年5月23日～6月2日に管内の農業法人5法人を対象に大麦種子生産ほ場のほ場審査を行いました。当管内では石巻市で33.3ha、東松島市で6.1haの大麦種子の生産が行われています。

今回は第二期(糊熟期)の審査となり、生産者、JAいしのまき職員が立ち会いの下、当普及センター職

員が生育状況や栽培管理状況、変種・異品種の有無、病害虫について審査を行いました。生育はおおむね良好で、全ほ場が合格となりました。5月下旬から6月上旬にかけて好天が続いたことで、子実中の水分も順調に低下し、早いほ場では6/5から収穫が始まっています。

当普及センターでは、栽培指導や審査を通して優良な大麦種子の生産を支援していきます。

○石巻管内で麦現地検討会が行われました!

令和5年6月13日

石巻農業改良普及センター



令和5年5月29日～6月7日に石巻管内の石巻・河南・桃生・河北の4つの地区でJAいしのまきの各営農センターが主催する麦類現地検討会が開催されました。

今回の検討会では、子実中の水分測定や麦の状態を確認し、適期刈取を指導しました。麦は適期より早く刈ると空洞化や品質低下を引き起こし、遅く刈ると収穫ロスや発芽粒、病害の発生等、品質の低下につながります。参加した生産者は、高品質麦の生産を目指し、適期刈取でできるように真剣な様子で検討を行っていました。今年は春先の高温など天候に恵まれた結果、生育の進みが早く、例年より早く収穫を迎える見込みとなっています。

当普及センターでは、栽培指導を通して高品質な麦の生産を支援していきます。

○子実用とうもろこしの生育調査を行いました

令和5年6月15日

大崎農業改良普及センター



JA古川では、令和5年度102haで子実用とうもろこしの栽培に取り組んでおり、6月6日(火)には、ほ場巡回調査会が開催されました。

調査会では、3班体制で全30経営体のほ場を巡回し、苗立ち本数・草高・葉色・葉齢を調査したほか、耕種概要や雑草の発生状況について関係機関で共有

を図りました。調査した結果、苗立ち本数は目標の7,000本/㎡前後、葉齢は6～8葉になっているほ場が多く、順調に生育が進んでいることを確認できました。また、適期に雑草防除ができていないほ場では、残草が少なく、畑作で特に問題となっている雑草の帰化アサガオ類が枯れていました。

今回は、絹糸抽出期（雌穂のひげが出始める時期）の前にあたる6月下旬に同様の調査会が開催される予定です。普及センターでは、子実用とうもろこしの安定生産に向けて引き続き技術支援を行ってまいります。

○JAみやぎ亘理の飼料用米研修会が開催されました

令和5年6月16日

亘理農業改良普及センター



令和5年6月2日にJAみやぎ亘理主催の飼料用米乾田直播研修会が開催され、生産者、関係機関担当者等34人が参加しました。

始めに、飼料用米専用品種の乾田直播ほ場を見学し、稲の生育状況や雑草防除効果などを確認しました。ほ場の担当生産者からは「乾田直播は、田植をしなくてよいので、労力がかかなり軽減できる」と感想を述べていました。

講話では、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター研究員から、専用品種の特性として、収穫量が多く、茎が短く倒れ難い点や、乾田直播の苗立率を安定させるためには、播種前のほ場均平と鎮圧が重要なポイントであることが説明されました。

普及センターでは、生産者、関係機関と連携し、水稻乾田直播の栽培技術向上を支援してまいります。

○「つや姫」栽培研修会が開催されました

令和5年6月16日

登米農業改良普及センター



令和5年6月14日に、JAみやぎ登米稲作経営

部会の「つや姫」栽培研修会が開催されました。

迫地区は管内でも「つや姫」の作付が多い地域です。研修会には、部会員以外の生産者も含めて16人が参加しました。

研修会では普及センターの職員が講師を務め、栽培の基本について講義を行いました。

参加者は、「つや姫」の栽培要件に則って基本の栽培技術を励行することを改めて確認しました。また、全農宮城県本部より「つや姫」の販売状況について話を聞き、これからも自信を持って作付していくことを再確認しました。

普及センターでは、今後も多彩な米づくりの取組について支援を行ってまいります。

○まもなく小麦の収穫期を迎えます

令和5年6月23日

大崎農業改良普及センター



大崎普及センター管内では、大崎市古川で「シラネコムギ」の栽培が行われており、令和5年産は、約50ha（採種ほ場を含む）で作付けされています。令和5年産の「シラネコムギ」は、昨年10月下旬に播種が行われ、高温の期間が長く続いたことから、過去10年で最も生育が進んでいます。

令和5年6月16日（金）には、JA古川主催の刈取り適期判定会が、例年より約1週間早く開催されました。判定会では、各生産者のほ場を巡回し、生育状況を確認しながら、収穫の適期について検討を行いました。生育が進んでいるほ場では、成熟期に達しており、収穫適期は6月20日頃になると判定しました。小麦の刈り遅れは、発芽粒や赤かび病の発生を助長し、品質の低下を招きます。このため、梅雨時期の少ない晴れ間を利用し、効率的に作業が行えるように準備を進めてほしいと呼びかけました。

○今年的小麦はいつ刈る！？～現地検討会が開催されました

令和5年6月26日

美里農業改良普及センター



美里管内は県内で最も小麦の作付けの多い地域です。適期の短い小麦の刈り取り時期判定、刈り取り順の調整のため、6月12日～16日にかけて管内各地でJA新みやぎによる現地検討会が開催されました。

今年は春先の高温を受けて出穂がかなり早まり、刈り取りも例年になく早まる可能性があるため、適期はいつになるかと多くの生産者が集まりました。しかし、講習会当日は、梅雨入りしてからの雨続きで刈り取り適期の目安となる粒の水分が測定できず、ほ場の様子や粒の色、事前に測定した穂水分をもとに、生産者も普及センター職員も頭を悩ませながらの適期判定となりました。生育はおおむね順調で、穂数も十分あり、高収量が見込めるほ場が多いようでした。

管内では、梅雨の合間の晴れ空のもと、19日ごろから刈り取りが始まっています。さて、今年の出来はどうでしょうか。

○JAみやぎ登米石越町稲作研究会の現地検討会が開催されました 令和5年6月27日 登米農業改良普及センター



令和5年6月23日に、JAみやぎ登米石越町稲作研究会の現地検討会が開催され、生産者8人が参加しました。

部会員の9ほ場を巡回し、水稻の生育状況と除草剤及び箱処理剤試験の効果の確認を行いました。

登米管内ではイネドロオイムシの発生が多く、特定の殺虫成分に対する感受性が低下したイネドロオイムシの発生も確認されており、これまでと異なる成分が含まれる箱処理剤の使用を勧めているところです。

今回の現地試験でも異なる成分の箱処理剤の試験を行い、高い効果を確認しました。

除草剤試験については、一部のほ場で残草が見られたものの、全般的に高い抑草効果を確認することができました。

普及センターでは、今後も水稻の収量・品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

○米山水稲部会の現地検討会が開催されました 令和5年6月27日 登米農業改良普及センター

令和5年6月26日に、米山水稲部会の現地検討会が開催され、生産者9人が参加しました。

部会員のほ場を巡回し、水稻の生育状況と肥料、除草剤及び箱処理剤試験の効果の確認を行いました。



肥料試験ほ場については、稲の葉色等から概ね設計通りの肥効となっていることを確認しました。

除草剤及び箱処理剤試験ほ場については、ほ場管理が優れていることもあり、高い効果を確認することができました。

梅雨の貴重な晴れ間となり、大豆の播種作業など農作業が多忙を極める中、参加した生産者の間では盛んに情報交換が行われ、有意義な現地検討となりました。

普及センターでは、今後も水稻の収量・品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

○水稻乾田直播栽培の生育調査を行いました 令和5年6月27日 大崎農業改良普及センター



宮城県では、水稻の省力・低コスト化技術として、乾田直播栽培の取組が普及しており、石巻や登米地域を中心に県内で約2,000haの取組面積となっています。

一方で、大崎地域では、取組面積が約40ha(R4普及センター調べ)となっており、普及が進んでいないことから、普及センターでは、技術導入を支援する活動を行っています。

その活動の一つとして、6月19日には、今年度2回目となる展示ほの生育調査を行いました。生育は概ね順調で、栽培で特に問題となる雑草についても適期に防除ができていました。

普及センターでは、引き続き生育調査を実施し、生育状況の把握に努め、大崎地域での乾田直播栽培の普及拡大に向けて技術支援を行ってまいります。

2. 農畜産物の安定供給

①時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

**○気仙沼金のいぶきブランド化推進協議会の設立
総会が開催されました**
令和5年6月1日
気仙沼農業改良普及センター



「金のいぶき」は玄米食専用の水稻品種で、胚芽がひとめぼれの3倍と大きいことから、GABAなどを豊富に含み、栄養価が高く、食味や食感がよいといった特長があります。また、健康志向の消費者への需要も高く、高単価での取引が期待できます。気仙沼管内では、令和3年に普及センターの栽培展示ほ(20a)を設置してから、担当農家とともに地域に応じた栽培管理を検討し、令和4年は55a、約450kg/10aと順調に拡大してきました。令和5年は、生産者が新たに5者加わり、面積は3.8haまで拡大される予定です。

そこで、金のいぶきをフラッグシップとして気仙沼市の稲作経営を振興するため、「金のいぶき」のブランド化を行う協議会が設立されました。気仙沼市の金のいぶき生産者6者、卸小売業者、気仙沼市産業部農林課がメンバーとなり、今後は、貝殻など海産物由来資材を活用した土づくりなどで「海の街気仙沼」を活かした栽培に取り組むとともに、独自のパッケージデザインなどをとおしてブランド化を進めていきます。

最終的には、管内での栽培を20haまで拡大する目標を掲げています。

これから、栽培研修会の開催などをとおして、高品質・多収を実現し、気仙沼市の農業振興につなげてまいりますので、秋に「気仙沼金のいぶき」を見かけた際には、ぜひ御賞味ください。

○仙台市農作物有害鳥獣対策協議会の総会が開催されました
令和5年6月8日
仙台農業改良普及センター



令和5年5月30日に仙台市農作物有害鳥獣対策協議会の総会が開催されました。協議会では、猟友会や宮城県自然保護員などが会員となり、防護柵の設置と合わせ、有害鳥獣を積極的に捕獲することで、仙

台市内の有害鳥獣による農作物への被害を減らそうとしています。

特に、狩猟免許を所持する者しかできないわなによるイノシシ等の捕獲を、地区に1人でも免許を所持する者がいれば、免許を持っていない方々も捕獲に参加できる制度である「地域ぐるみの捕獲対策」に注力しています。

「地域ぐるみの捕獲対策」を実施する場合には、年に1回以上仙台市が開催する技術講習会を受講する必要がありますが、令和4年度も市内42地区で延べ568名の方々が参加し対策を実施しています。仙台普及センターとしても、中山間地域における営農を継続させるため協議会の取組を支援してまいります。

3. 持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○酒米サポーターズクラブの田植えが行われました
令和5年6月2日
気仙沼農業改良普及センター





気仙沼市廿一地区は、中山間地域に棚田の広がる風光明媚な地域です。

清流「蔵の華」廿一会（会長：熊谷公兵氏、会員 12 名）では、この地域で酒米「蔵の華」を約 7ha 栽培し、気仙沼市内の蔵元 2 社（株式会社男山本店、株式会社角星）に全量出荷しています。

5 月 27 日には、同地域にある廿一会員のほ場を会場に、酒米サポーターズクラブ（事務局：気仙沼市産業部農林課）主催の田植え体験会が行われました。

当日は好天に恵まれ、廿一会の会員や蔵元などに加え、東京都や埼玉県からも参加を得て、約 50 人で田植えを行いました。「田植え定規」や「おさ」という昔ながらの道具で植付け所印をつけた後、手作業での田植えに挑戦しました。

参加者は田んぼに足を取られつつも、楽しみながら丁寧に作業を進め、1 時間余りで約 5a の田植えを終えました。

秋には収穫イベントも企画されています。普及センターでは、高品質・多収に向け、現地での栽培研修会開催など、引き続き支援を行っていきます。

○あ・ら・伊達な道の駅販売拡大研修会

令和5年6月5日

大崎農業改良普及センター

普及センターでは「直売所の運営強化支援」として、これまで管内の直売所出荷者を対象に収益性の高い品目の導入を提案する研修会を開催してきました。



大崎市岩出山地区の「あ・ら・伊達な道の駅」は全国でも有数の販売額を誇り、その農産物直売所はこの地区の農業者にとって重要な出荷先となっています。

そこで出荷品目の拡大による出荷者の所得向上と地域の活性化を推進するため、令和5年5月31日に「あ・ら・伊達な道の駅販売拡大研修会」を開催しました。

研修会では、主にこの秋から冬にかけて収穫・販売可能な品目を中心に上げ、林業振興部職員によるハタケシメジ「みやぎ LD2号」の簡易施設栽培、

普及センター職員による収益性の高い秋冬作の野菜や花き、果樹の有望品目について解説を行いました。

普及センターでは、今後も管内の農産物直売所活性化に向けた支援を行っていきます。

○地域計画策定に係る担当者会議を開催しました

令和5年6月8日

仙台農業改良普及センター



令和5年5月24日に仙台地方振興事務所管内の市町村、農業委員会、土地改良区、JAの担当者等を参集し、令和5年度地域計画策定に係る仙台地域担当者会議を開催しました。まず、東北農政局から地域計画策定・実行までの流れ、協議の場の設置に向けた調整、関係機関の役割、目標地図作成手順などの説明を受けました。

次に、各市町村等の担当者から工程表（作業予定表）に対する進捗状況等の報告がありましたが、工程表よりも進捗がやや遅れているような地域もあり、農地の出し手、受け手の把握や協議の場の持ち方などで検討を重ねている状況でした。

昨今、どの地域でも農業の担い手不足が深刻化している状況の中、地域の担い手を明確にし、地域の合意や応援を受けながら、農地の集積や集約を行い効率的な農業を進めて行く事が大変重要です。このため、普及センターとしても、「地域計画」が計画的に策定されるよう市町村を支援してまいります。

②環境に配慮した持続可能な農業生産

○「グリーンな栽培体系」を目指して、展示ほ場の生育調査が行われました

令和5年6月15日

登米農業改良普及センター



令和5年6月13日に普及センターのプロジェクト課題である「グリーンな栽培体系の実践による持続可能な稲作経営の実現」の展示ほ場の生育調査を行いました。調査にはJAみやぎ登米及び肥料メーカーも参加し、一緒に生育を確認しました。

豊里、迫のペースト肥料を二段で施肥した展示ほ場では、茎数、草丈、葉色ともに生育が順調に進んでいました。今後、稲が下段に施肥した肥料を吸収することで、生育がより一層進むことが見込まれます。ペースト肥料以外の脱プラスチック肥料として、ウレアホルムを用いたほ場及び堆肥入り特殊肥料と流し込み肥料を組み合わせたほ場も調査を行っており、こちらも生育は順調に進んでいました。従来のひとめぼれ環境保全米生育調査ほ場の生育状況と比較しても、同等かそれ以上となっています。

今後も定期的に展示ほ場の調査を行い、グリーンな栽培体系の実現に向けた検証を行っていきます。

○JGAP 団体認証取得に向けた IPM 研修会が開催されました
令和5年6月27日
美里農業改良普及センター



JA 新みやぎみどりの地区で青ねぎの JGAP 団体認証取得を目指す取組の一環として、令和5年6月5日に IPM に関する研修会が開催され、生産者6人が参加しました。

IPM (Integrated Pest Management, 総合的病害虫管理) とは、病害虫の発生を観察しながら、化学農薬だけでなく、耕種的防除等を組み合わせて病害虫を管理する手法で、環境への影響を少なくし、安定した農業生産を行うものです。JGAP では IPM の実践が必須となっており、研修参加者は GAP への取組を機に IPM にも取り組むこととしています。

研修会では、宮城県農業・園芸総合研究所の研究者から、IPM の基本的な知識や実践の重要性等について説明があり、普及センターからは、今回活用する微生物農薬について説明しました。

生産者からは、化学農薬だけに頼るのではなく、天敵の導入や粘着板によるモニタリング等を組み合わせた防除に取り組んでいきたいとの感想が出されました。

今後も普及センターでは、GAP の取組や IPM 等の環境に配慮した持続可能な農業生産に関わる取組を支援していきます。

③大規模自然災害等からの復旧・復興

○令和元年東日本台風等豪雨災害からの施設園芸法人経営再建支援
令和5年6月14日
仙台農業改良普及センター



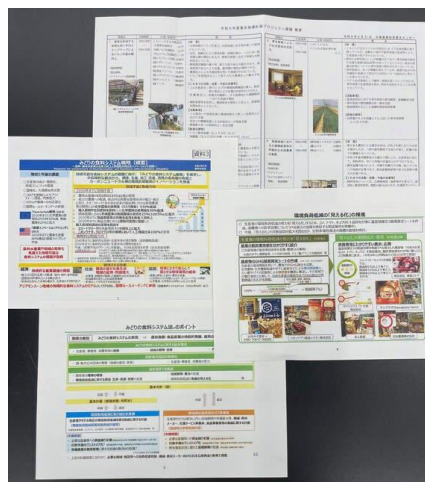
普及センターでは、令和元年東日本台風及び令和4年7月の大雨により被災した株式会社イグナルファーム大郷(大郷町)の経営再建に向けた支援を行っています。県関係機関や専門家による支援チームをつくり、経営及び生産技術支援の両面から、グループ会社である株式会社イグナルファーム(東松島市)をあわせて支援することにより、経営改善を進め大郷社の再建を目指しています。

支援チームとイグナルファームとの月次のミーティングでは、経営の課題を明らかにしながら、改善の取組を進めています。その一つとして、同社が手掛ける6次産業化の商品などを返礼品としたクラウドファンディングに挑戦することとなりました。この支援を活用して新たな生産施設の整備に着手し、(株)イグナル大郷の再開への足掛かりとしていくこととしています。

4. その他

①要請・緊急対策、その他

○～関係機関一体となって石巻の農業振興を進めていきます～ 令和5年度石巻地域農政担当課長会議を開催
令和5年6月14日
石巻農業改良普及センター



令和5年5月31日に石巻合同庁舎において、令和5年度石巻地域農政担当課長会議を開催しました。

この会議は石巻市、東松島市、JAいしのまき、農業共済組合、土地改良区、みやぎ農業振興公社等、関係機関の農政担当課長が出席し、石巻地域の農業振興施策等に関する情報を共有し、協議する場となっています。

今回、当農業振興部から、本年度の石巻地域における農業振興施策として、石巻地方米づくり方針や園芸産出額増大に向けた取り組み、令和5年度普及指導計画等について説明しました。さらに、今後振興を図っていく「みどりの食料システム戦略」、「スマート農業システム」について情報提供を行いました。

また、各関係機関からは、独自に取り組む事業の紹介が行われ、関係機関相互の農業施策の共有が図られました。

今回の会議を踏まえ、今後も関係機関一体となって、石巻地域の農業振興を進めていきます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.197

発行日:2023年7月20日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp